



# 自然観察

No.104  
2012.11月

## 目次

・旭川地方研修会報告	2
・札幌地方研修会報告	3
・滝野の自然に親しむ集い	5
・自然観察指導員としての活動について	6
・フィールドニュース 茅部郡鹿部町	8
・ウォッチングレポート	9
・参加者の声	14
・観察部からのお願い	14
・会計からのお願い	14
・ウォッチングプラン	15
・理事会だより・連絡先	16



一心にハウノキの実をついばむアカゲラ (野幌森林公園 12月)

# 旭川地方研修会報告 2012/8/25

旭川市博物館・神楽外国樹種見本林・突哨山 参加7名

テーマ1：講話「旭川のアイヌ民族の暮らしと自然」 瀬川拓郎・博物館副館長

テーマ2：見本林の樹木を知り、生態を考える

テーマ3：突哨山の新ルートを歩く

まずは博物館に集合。考古学が専門の瀬川さんに、地図やイラストを使ったスライドで、幕末から明治期にかけての旭川のアイヌ民族の暮らしぶりを聞きました。

和人が移り住む以前の上川盆地は、石狩川とその支流が大きく蛇行する低湿地でした。縄文時代の遺跡が洪水を避けて高台にあるのに対し、アイヌコタン（集落）は川近くに位置しています。その場所は、シロザケの産卵床の分布とよく一致します。

幕末、松浦武四郎らの記録から、上川アイヌは70戸ほどのコタンで数十万尾のサケを漁獲していたと推定されます。自家消費をはるかに上回り、鉄器や装飾品などの交易が目的だったと考えられます。洪水のリスクを冒してでも生産を優先し、丸木舟を操って和人や北方民族と干しサケを手に交易に励んだ、ダイナミックな「川の民」の姿が浮かび上がります。従来 of 静穏で自給自足的なアイヌ民族のイメージが、ここでは少し異なって見えます。

サケの産卵床だったメム（泉＝扇状地末端の湧き水）の多くは、市街地に埋もれて消えています。住宅街に残る流れの跡や林、小さな段丘、そうした身近な自然から、環境を巧みに利用した先住民族の知恵と暮らしを知ることができました。

午後は小雨の中を見本林へ。三浦綾子の「氷点」の舞台となり、記念文学館もあります。数年前の台風で大木が倒れた跡は、同じ樹種が植

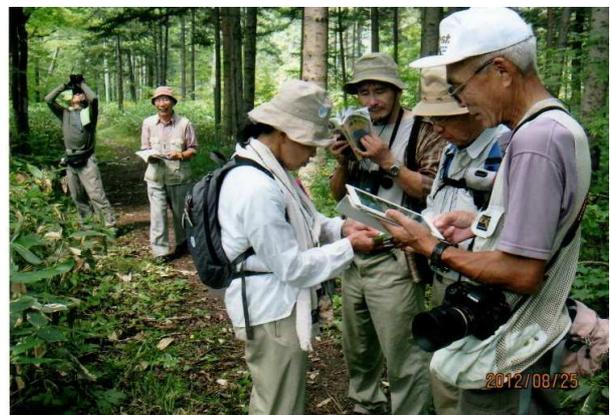
林されています。オウシュウトウヒ、ストロブマツ、ベルコーザカンバなど、外来の大木が梢を連れ、北海道に適した造林木を試行錯誤した開拓期の意気込みが伝わります。

今では郷土樹種が優先され、ニホンカラマツを除いて、積極的に植えられることはありません。針葉樹の中でも2葉、5葉など、葉や樹形、樹皮の違いを見比べ、識別の眼を養いました。

雨の上がった夕方は予定を変更して突哨山へ。旭川の会員が四季を通じて観察会を開いているフィールドです。公募の運営協議会と指定管理者のNPOがかみ合った市民参加型の運営方法や、看板や道の幅まで論議を重ねた経過を聞き、セルフガイドのマップを手に森を歩きました。

前年に開通したばかりの「谷渡りルート」は、名前の通りにいくつもの小沢を渡り、湿性植物や旧スキー場からの植生回復が見られます。丁寧に草刈りがされ、変化に富んだコースで、「次回の観察会はここにしよう」と決まりました。

夜は恒例の東鷹栖八線小屋に集まり、焼き肉とビールで泊まり込み。収穫の多い1日を終えました。 報告者 山本 牧



マップを手に見本林の見学

## アイヌの歴史と生活を学ぶ

10月28日、札幌市小金湯温泉にある札幌市アイヌ文化交流センターピリカコタンにて北海道自然観察協議会主催の「札幌地方研修会」が開催され、非会員を含めて9人が参加し、講師の計良光範氏からアイヌの歴史と文化・生活について学びました。

この研修会は、旭川に続く全道レベルでの研修会で参加者は必ずしも多くはありませんでしたが、少数精鋭で講師に対する質疑も多数出て実り多い研修会となりました。

講師の計良氏は、1992年に自ら行動するという意味の「ヤイユーカラの森」を立ち上げ、その運営委員長として刺繍を中心とした手芸、キャンプなどを行う活動を行っている方で、北海道教育大学の非常勤講師も勤めておられます。

研修会では、『アイヌ文化～アイヌが最もアイヌらしかった頃～』と題して報告がありました。



講演風景

最初に「アイヌとは何か」について触れ、神に対する人間つまりアイヌモシリを指すとして、1961年以来、様々な理由によりウタリと表現されてきたが、今日、再びアイヌという呼称に戻されるようになったとのことです。

続いて「アイヌ文化とは」について触れ、生活そのもので歴史の上に築かれるものゆえ、歴史とともに変わるものだという事です。

アイヌ文化としては、擦文文化にオホーツク文化が加わる中で、1400年以降に、「チャシ」

(砦)、「ユーカラ」(神謡)が盛んにつくられるようになってアイヌ文化の原形が形成されて、その後変化をしながら今日に至っているとのことです。

こうした認識のもと、「最も古いアイヌ文化の痕跡」は、道内にあるチセヌプリ、ベツ、ナイというように地名に典型的に現れているそうです。

また注目すべき指摘としては、アイヌ文様は、その起源というか、元になったのが縄文土器の縄目、もしくは網目だったという報告がされました。

網目が体或いは本体を防備する、魔よけの意味で、こうした伝統精神を受け継ぐものだという事です。

「アイヌの生活」では、基本となる狩猟、漁労、採集のほか、小規模農耕、交易等も行われていたと指摘されました。

「アイヌ文化の推移」では、松前藩時代の異化政策から幕府、明治政府の同化政策への転換が行われ、とりわけ明治政府の狩猟・漁労等の正業に関わる分野での法規制をはじめ言語を含めた和人化への教育の徹底、伝統風俗の禁止などが行われ、アイヌ文化の急速かつ緩慢な喪失が行われてきたとのことです。

「アイヌの世界・意識空間・領域」は神の地である「カムイモシリ」、人間の地である「アイヌモシリ」、そして死者の地である「ポクナモシリ」からそれぞれなっている。

カムイモシリからアイヌモシリは自由に行き来できるが、アイヌモシリからポクナモシリはそれができず、アイヌモシリからポクナモシリにいくだけ。

また死者の地のポクナモシリから人間の地を通って神の地のカムイモシリにも行くことができる。

こうした中で「神と人間との関係」では、神は素手で勝つものではない自然現象、動植物、病気、死者等を表すものに対して、物は人でないもの、器物等のものを指す。これら物にも霊はあるという。

神と人との関係は、基本的に対等・平等の関

係で、神は人を守る義務があるのに対し、人は代わりに供物を捧げる、敬うことが求められる。

その他、口承文芸の分類・解説、有名なイヨマンテの意味など触れて、昼食をはさんで、施設の外にあるチセ、並びに屋内の展示施設内の展示物をそれぞれ計良氏の案内解説をいただきながら見学した。

特にチセ内では、薪が燃やされ、煙がくすぶ

る囲炉裏の傍で、神窓、囲炉裏に座るときのそれぞれの人の座席の位置などを解説して頂き、参加者一同、深く頷いていました。

また屋内の展示室では、豊富な品々が展示しており、各自、興味ある展示物について計良氏から解説してもらうなど、終始熱心に見入っていました。 報告者 村元 健治



展示作品の解説をする計良氏



チセの中で



参加者全員で記念撮影

## 参加者の声

札幌市東区 三和 守暁

8月11日~12日、1泊2日の日程で第23回滝野の自然に親しむ集いに参加しました。日ごろ、子供との余暇の過ごし方といえば公園やプールに出かけるといった感じでしたので今回の体験学習は自然に目を向ける良いきっかけでした。

「はじめまして仲良しゲーム」参加者間のコミュニケーションがとることができました。

「せせらぎウォッチング」アシリベツ川の冷たい水に足をつけ、網を引き上げると中に入っていたのは小魚や虫の幼虫に自然の営みを見ました。

「野外炊飯」かまどづくり・まき割り・火起こし・飯ごうで炊いたご飯とジンギスカンおいしかったです。

「夜のつどい」自然学園の管理人さんの司会進行の下、火を囲み楽しかったです。

「星空観察」雲のない夜空で多数の星々・流れ星を見ることができました。

「バードウォッチング」普段はあまり気にしてなかった鳥たちの鳴き声・飛ぶ姿を観察できました。

「自然観察ハイキング」植物・鳥・昆虫の夏の姿に触れることができました。

このような貴重な機会を運営くださった皆様に感謝申し上げます。



全員集合



みんなで虫取りや鳥の観察

# 自然観察指導員としての活動について

苫小牧市 谷口 勇五郎

全道の自然観察指導員(以下指導員)としての登録者は320人ほどおります。いろいろな事情から「自然観察」を読み、会費を納める以外の指導員としての活動に関わっていない人が多くいます。事情が許すなら初心にかえり、観察会等の活動に参加され、生きがいのある人生を過ごされることを期待し書いてみました。個々の指導員により、経験・力量・年齢の違いから、考え方・やり方が異なる事があるので、以下の文は全く私の個人的なものです、一つの参考になればと思います。

## 基本的な考え方

入門講習を受け、登録し、指導員として活動しようと思ったが、観察会等に参加できない事情が色々あると思います。現在は仕事が忙しい・体調が優れない・他の興味に関心が強いなどでしょう。年間に数千円の会費を納め、機会があればと思っている方は是非参加し、生き甲斐と健康づくり、そして自然の保護の為に活躍されることを期待しています。

自然観察は何時でも、どこでも出来ますし、個人的に家族・友人・知人を集め自然観察会をする場合は力量がどうあれ、どんなことを取り扱っても問題はないでしょう。

しかし、北海道自然観察協議会(以下協議会)の名前を出し、参加者を公募して自然観察会をする場合は、内容・場所・時期・指導員の配置などが問題になります。

例え、参加費は100円でも、交通の経費をかけ、内容に期待して参加しているのです。十分に安全の配慮をし、参加者のニーズに応えるような解説(案内:以下ガイド)であることは言うまでもありません。隊列がばらばらで、長くなり、前の2~3人しか耳を傾けていない状況も見かけます。ガイドの仕方が悪く、興味を持たれず、離れて行き、一人舞台上、バラバラになり、安全上もまずい状態です。10人ぐらいの班なのに3~4人のものがそれぞれガイドをし出し、分裂状態を続けているものもあります。これは前者ほどでないにしても、問題が起きればどうするのでしょうか。班全体の掌握はガイドの仕方に関係します。事故を起こさず、参加者の全員が満足して、終わるにはどうすればよいか、個人的な考えを述べたいと思います。

## ガイドする実力を高めること

班全員に向き、皆の顔を見ながら、良く聞こえる声で話すことです。しかし、内容が伴わなければ5分も注目してくれません。参加者は参加したことを悔やみ、ばらばらと勝手に観察し出します。告知の内容にもよるのですが、普通の自然観察会で取り上げるものは、目の前にある(いる)生物(木・草・鳥…3分野)と若干の地史と地域の文化だと思います。

生物の3分野はそれなりに扱えるように取り組んだ方がよいと思います。そうでないと1人でガイドはできませんし、自然は生物相互の関係で成り立っています。参加者は自然(特定の分野だけではなく)について知りたいのです。指導員はガイドすることが専門なので、分かり易く丁寧に、自然をガイドすることだと思います。1分野でさえ、かなりの分量があるので、得意分野から取り組み始めるでしょうが、少なくとも3分野は避けないで、真っ正面から取り組むことがよいと思います。得意分野は更に深めることは望ましいことです。出来ることなら、本腰で始めてから、自分のコースの3分野のものは3~4年以内に、それなりに扱えるようにした方がよいと思います。

## 具体的にどうするか

まず、分からないことは、分からないとはっきり言えることです。そのままにしないで、自分で調べたり、人に聞いたりして解決することです。下見を数人で行えば、すぐ実力の程度がばれます。それで下見に出ない人がいますし、また出ても皆の側にこない人がいます。今更こんなことも、知らないのかと思われたくないのでしょうか。その積み重ねでは何年経っても自分のものにはなりません。間違えて(失敗して)恥をかくことです。間違いを恐れるとつい避けてしまいます。そうすると

学びはなかなか進みません。下見には出られないし、分からないことを人に聞けません。当然、自信を持ってガイドは出来ません。

図鑑は手頃の写真（携帯可）のものと、スケッチのものを持つことです。写真では形（花・葉など）や肝心なところがはっきりしないのです。植物では写真や標本づくりはそれなりの意味はあるものの、区別点があいまいで、かさばるので、ノートにスケッチと簡単な説明を添える。ノートのページを写真の図鑑に記入して置く。鳥は慣れることが大事なので、常に心がけ、身近なもの（植物・鳥）から手当たり次第に、調べたり聞いたりして自分のものにするのです。



観察会で

自宅近くで協議会の自然観察会があれば、参加しその指導員に教えてもらうことです。そして自分の希望を率直に述べ共に活動させてもらうことです。言わなければ分かりません。誰かの誘いを待つのではなく、自分がしたいことをはっきり言い、行動することが肝心と思います。

各地の自然観察会や探鳥会に参加し、リーダーにぴったり張り付き学ぶことです。人によりいろいろな学び方があるでしょうが、学ぶ情熱とスピードが大事だと思います。

5年、10年が過ぎ、熱が冷め、今更と言う気持ちになります。それは1~2分野だけ扱える人は、もう残りの2~1分野は今更ということになりかねません。前向きに新たなものに挑戦する意欲の継続が大事だと思います。余力があれば虫・獣・キノコなども扱えることは参加者の多様なニーズに応える意味で望ましいと思います。

指導員としてガイドをしたいという気持ちは、参加者の多様なニーズに応えることなしには実りは少なく、単なる自己満足に終わりがねません。

## 安全配慮・場所・時期・告知など

安全配慮は自然観察会で最も重要な事柄です。転倒による骨折や切り傷（決して急がせないこと、両手は空けていること）、危険な動植物（十分な下見）など、常に注意を呼びかけながら、進めまします。全員を掌握していないとそれが出来ません。その意味でもガイドする力量がないと事故も起きかねません。

見せたいものが決まれば、場所・時期は決まります。新たな場所を開拓することもいいでしょうが、力量に余り自信がない方は、先ず、地元で自然観察会をしているところの門を叩くことです。力量が高まれば適当なところも発見できるし、協力者も出来ているはずで、地元での自然観察会にできれば、その指導員は自分より実力が高いので、ガイドをさせてもらえず、せいぜい補助者だろうと思い、そこで新しい場所を求め、まわりの協力も頼まず始めようとする人もいます。参加者の多くは指導員が間違えても、まず、間違えたとは言いません。つい、お山の大将になりかねません。そうすると、謙虚さが失われ、いつまで経っても向上せず、自己満足に終わりがねません。

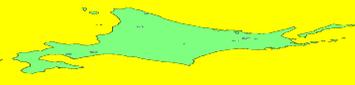
私たちは協議会の看板を背負い活動しているのです。あそこの協議会の観察会は安全配慮もガイドの力もさっぱりだったと、誰も言われたくないと思います。

新聞社などで告知してもらいますが、日時・場所そして内容（見られないものを単なる希望で書いてはいけません）などは新聞社の都合が優先されるので、掲載されないこともあります。

最初の3~4年は夢中で学び、最も充実し楽しくて仕合わせな時でした。観察会では参加者の納得の表情や笑顔に出会うたび、仲間と協力して無事終了したときに生き甲斐を感じます。

最近では観察会に出て、他人がガイドしているのを見ているのも楽しいようになりました。おまけに森林浴は免疫力を高め健康増進の効果があるとされます。是非、指導員として自然観察会等の活動に参加することを期待しております。

（この原稿は自然観察指導員としての活動のあり方について 編集部から日頃観察会を計画・実行している谷口 勇五郎さんに原稿をお願いしたものです。）



## ラムサール条約登録の大沼で

茅部郡鹿部町 大野 喜久男・和美

初めまして。私たちは、終の住処としてここ道南の鹿部町に埼玉県から移住しました。

2003年に先に妻が移住し、5年後の2008年に私が移住しました。私の仕事の関係で5年遅れましたが、若い頃から自然が好きで北海道はあこがれでした。鹿部町は函館市内から車で50分位の所です。周辺は緑が多く海岸線が近くて人口4800人ほどの小さな町で、主に漁業です。

昨年の東日本大震災以来、にわかに環境問題が報道されています。福島の放射能漏洩事故後、各地で原子力発電所が停止し、火力発電所がフル運転しています。地球温暖化の二酸化炭素放出が、逆に火力発電所の運転で、拍車をかけてるように思われます。そして放射能汚染による生物多様性が、将来どれ程の影響が生じるのか心配です。また新エネルギーの開発に伴う自然保護に影響がないように、配慮してもらいたいと思います。

私たちの日頃の活動は、今年7月に道南で初のラムサール条約で登録された大沼を拠点とした大沼森林公園を主にボランティア活動しています。樹木や草花の保護や自然観察及び道南桧山を中心とした日本野鳥の会の探鳥会などに参加しています。そこで更にスキルアップするために今回北海道自然観察協議会に入会しました。道南からは少し遠距離かと思いますが今後ともよろしくお願いします。



駒ヶ岳と大沼



苫小牧市 「冬の錦大沼」 2012/3/25

天候 雪 掲載紙 道新・朝日・読売  
毎日、民報

## もうすぐ春だよ

昨日から雪。3月としては珍しい。

当日の降り方は激しい。この天気では参加者は居ないだろうとの予想に反し一名が参加。喜ばしい。

激しい雪の中定刻に出発。シラカバやハンノキ類の雄花が例年より極端に少なく、しかも花穂も今時分としては短い。花粉症の発症も少なくなるだろうなどの話題に進展。樹木の種類による冬芽のつき方を観察。

激しい雪の中でも鳥類が意外に活発な活動を確認をしている。条件の悪い中でも自然の営みを感じた。

11時頃より風も強くなり、参加者の了解を得て散会。観察会も天候には勝てず。残念。

佐々木 昌治



ほとんどのカタクリは固いつぼみでした。(小樽市 旭展望台)

小樽市 旭展望台 2012/4/28

## 春いちばんの草花

北斜面にはまだ残雪があり、陽だまりによりやく春の息吹が認められる早春の観察会です。お目当ては、春の妖精・スプリングエフェメラルたちですが、今年もまだ雪がすっかり消え去っておらず「4~5日早かったな」という感じでした。

春一番の観察会は人気が高く、毎年カタクリに会いに来るリピーターの方も多いのです。

今年是小樽商科大学の中国人留学生2名も参加してくれましたが、来年は帰国されているらしいです。

小樽の観察会では、参加者の班分けをせずに、要所要所で各指導員が(自分の得意分野で)全体に説明する方式を取っています。

また、自然ばかりではなく、自然に育まれた歴史や文化についても説明することが特徴で、今回も解散地点にある小林多喜二の文学碑の前で、多喜二をめぐる歴史と文学の解説を行いました。 後藤 言行



多喜二の文学と生涯を語る

札幌市北区 屯田防風林 2012/5/20

天候 快晴

### 春の妖精

朝から快晴の天気にもまれたさわやかな、春の観察会になりました。

指導員5人は、参加者19名を3班に分けて開始、駐車場横でプラタナスの、黄緑色で球形の雄花序と紅色の雌花序を見てから森の中へ。タラノキの芽吹き、オオアマドコロ、ホウチャクソウ小群落の開花、エゾタンポポとセイヨウタンポポの繁殖の優位性で見分け方についての話。ヤチダモの切り株で、クイズ方式で樹齢の推定と実際（樹齢58）に年輪を数え、年輪が残した記録のバーコードの広い、狭い成長幅について話し合いました。

途中山田大邦先生に、トドノネオオワタムシの生活史について詳しい話がありました。つづいて”一人ぼっち”のレンプクソウ、マイズルソウ、自生種シロヤナギの大木、ハリギリ、アカゲラの営巣、クロユリ、オオタチツボスミレ、ツボスミレ、エゾエンゴサク、ミズバショウ、エゾニワトコ、エゾイタヤ、ミズナラの開花など、終始にぎやかで楽しい1日となりました。 池田 政明



オオタチツボスミレ



ツボスミレ

千歳市 紋別岳

2012/5/26

天候 曇り時々雨 掲載紙 読売

### 春の花・野鳥

予報では不安定な天気でも雨もあるとの事。出発時には、山の方はガスがかかっていたものの、晴れ間も見えました。

途中、頂上も見えるときがありました。木々はかなり芽吹き、春紅葉の時期は少し過ぎているものの、それらしい雰囲気は残っていました。

コンロンソウのつぼみが開きかけ、ツルネコノメソウ、オオタチツボスミレ、シラネアオイ、オオバキスミレなどが咲いていました。

雨模様のため野鳥のさえずりは多くありませんでした。イタドリハムシが多く見られました。

11時半過ぎになり、雨が強くなり、引き返し、終了することにしました。

谷口 勇五郎

小樽市 奥沢水源地

2012/5/26

天候 晴れ 掲載紙 道新・朝日・読売

### 小樽のおいしい水

天気予報が見事にハズレ、白寿を迎えた奥沢水源地をまずは表敬訪問。溢流路の水すだれをながめ先人の労苦に思いを馳せた。

6年9ヶ月の歳月をかけ大正3年に完成、小樽市民や寄港船への水供給という重要な使命を担い、今その役割を終え、新たに生まれ変わろうという時期。時あたかも佐渡市では野生のトキが巣立ち、自然保護運動の美しい成果が確認されている。

ここ小樽の生命を育むための自然涵養林は、林道を散策する人々、森林浴、ウグイスの声、オオウバユリやエンレイソウ、ニリンソウ、イタヤカエデやハウチワカエデの新緑が目を楽しませ、耳に心地よい川の流れる音、エゾサンショウウオの卵、エゾアカガエルの卵などが観察でき、30代から80代までの参加者も、風薫る5月、初夏のひとときを楽しむことが出来ました。 本間 正一

## 春の野幌の森を歩く

当日は木漏れ日も時々を観察会日和。指導員が4人、そのうちの一方が月形から3人の女子小学生とともに参加、リピーターも数名含む10人の大人の一般参加者と合わせて17名での観察会でした。

スタートの大沢口駐車場にはカメラを持った集団がエゾフクロウの親子を撮ろうとシャッターチャンスを狙っているところでした。

観察会が始まるまでにそれぞれの参加者がフクロウを確認したことを確かめてから森に入りました。今春の野幌森林公園は、例年よりも遅いと思いましたが、個々の草木の開花や展葉をみると、必ずしもすべてが遅いというのではなく、5月の何回かの暑い日々が例年の春のように花期を終えさせていたものも見られました。

3人の小学生はカメラで記録をとりつつ、5-7-5を詠み、終了時に1句ずつ披露してもらいましたが、大人とはひと味違う森の見方、豊かな感性に気付かされました。

横山 武彦

天候 晴れ

## 初夏の森林総研を散策しよう

灌木園では、ミツバアケビの黒紫色の花が見頃でした。ヒロハツリバナとツリバナの違いを比べて見る事が出来ました。その次はケヤキの葉一面の虫こぶ、住人のアブラムシをルーペで観察。

さくら園では、シウリザクラが二分咲き、隣のウワミズザクラが満開でした。ユリノキが枝をたれて、目の高さで見ることが出来るので皆で蕾探しをすると薄い葉につつまれた濃緑色の蕾をあちこちに発見でき、大喜びでした。

天候に恵まれ、参加者の皆さんは、意欲的に観察会に加わり、質問などもたくさん出て、私達指導員にとってやりがいのあった1日でした。

畑中 嘉輔

天候 曇り 掲載紙 毎日

## サンタが贈る雪形

この日は午後から回復するという天気予報の下、期待を膨らませながらの観察会スタートとなった。

集合時には、羊蹄山の残雪模様を見ることができ、わずかな時間ではあったが、背番号「41」などのユニークな雪形を見つけることができた。

雪形「白い馬」の観察ポイントでは、わずかな雲間から馬の全身を見ることができ、参加者達は皆雪形観察を楽しんだ。

ニセコアンヌプリの西側を大きく巡り、ニュー雪形探しをしたのだが、あいにくの濃霧で観察はできなかった。

次に観察ポイントの雪秩父では、雪形に関する掲示物を見て、大湯沼を散策し、自然観察を行った。

その後、蘭越方面へ移動し、雪形「ニワトリ」を観察する予定であったが、山間部のみ雲がかかるという状況で見ることができなかった。

山の麓では晴れているのだが、山の上のみ雲がかかり、観察に適さない天候であった。

しかし、雪形パネルによる座談会も盛り上がり、会としてはそれなりに有意義なものとなった。

今年は積雪が多く、開催日を6月としたが、4月下旬の暖気により大幅に雪解けが早かったようである。観察日を設定するのが難しい会であった。

山田 高嗣

小樽市 オタネ浜 2012/6/23

天候 曇り 掲載紙 道新

### ハマナス咲くオタネ浜

朝の天気予報では、曇り時々雨だったが、終了時には青空も見えて、まずまずであった。まずオタネ浜の碑にて、オタネ浜の由来、歴史について説明するが、参加者の方で詳しい方がいて、話に厚みが出来て良かったと思いました。

カシワの林は蚊が多かったので、野鳥の声を聞きながらT字路の広場まで進み、カシワ及び蝶類について説明したが、実際に実や葉などを手にとって見てもらった方がよかったです。かしらと思いました。

草原に出て、バギー車やバイクの走行跡を見て、自然度10の海岸砂丘を今後も守り伝えてゆく重要性を共有できたことは嬉しいことでした。ハマナス、ハマヒルガオがちょうど見ごろでした。 伊藤 佐保

札幌市清田区 平岡公園 2012/7/8

天候 晴れ

### 人工湿原の変わる様子を見よう

今日の観察会は、めずらしくリピーターより初参加の方が多かった。

立派なビロードモウズイカの花と葉の手触りで盛り上がったのスタートです。

トンボにとって今年は、どのような年になるのでしょうか？特にオニヤンマの姿がなく、今日も抜け殻が1個だけで、姿はなし。オオカワトンボ、シオカラトンボは例年数。シオヤトンボ、モイワサナエは1/4以下、イトトンボの仲間は1/3位です。皆さんの地域では如何ですか？

花はガガイモ、オニノヤガラ、ノハナショウブ、モウセンゴケ、エゾノヒツジグサ、オカトラノオなど。次回9月の見所、コクワの実、ルリミノウシゴロシなど宣伝して終了しました。 佐藤 佑一

石狩市 石狩浜 2012/7/14

天候 曇り

### 日本一のハマボウフウ群落

曇り空で暑からず寒からずの観察会日和でした。毛虫の繁殖も少なく、ハマナスをはじめハマヒルガオ、エゾカワラナデシコ、エゾノカワラマツバ等々、また湿原には、ノハナショウブの群落、そして砂嘴の先端附近一帯には、メインのハマボウフウの群落が、各々色とりどりに咲き誇って、今年は特に見事な、花いっぱいハマナスの丘公園でした。

草原の野鳥や、海のカモメ類、グループによってはオジロワシも観察できたといえます。また、ハマボウフウには色鮮やかなアゲハチョウの幼虫もいました。

与那覇 モト子

当別町 医療大学薬草園 2012/9/1

天候 晴れ 掲載紙 赤旗

### 秋の花々と木の実

残暑厳しい日でしたが、大勢の方の参加がありました。手入れの行き届いた薬草園でトリカブトなどの説明の後、2班に分かれて裏山「わたなべ山」の散策道路を観察しました。

わたなべ山の林床は17年前までササ原だったそうですが、ササ狩りをして、今では自然豊かな林床の森に変身しています。カタクリやエゾエンゴサクなどの春植物とシダ植物がたくさん見られるようになりました。

今もササ狩りは続いており、その現場を見学しました。

ササが入り込み、今まで見られた植物が消えた場所などではササ狩りが有効だということを実感しました。

堀田先生の班では、ニガキの葉をかじったり、トウキの匂いをかいだり、漢方の話を交えながらの楽しい観察会でした。

与那覇 モト子

千歳市 紋別岳 2012/9/8

天候 晴れ 掲載紙 道新・読売・その他  
秋の花・樹木

好天に恵まれ視界が良く、風もそよぐ程度で、最高の日和でした。

この時期は余り花も多くないのですが、樹木ではタラノキやクサギが花をつけ、草本では、ミソガワソウ、アキノキリンソウ、ミヤマセンキュウ、エゾゴマナ、エゾオヤマノリンドウなどが咲いていました。ダケカンバの林が続き、タニウツギ、ハナヒリノキが果実をつけ、オオカメノキは果実や冬芽をつけていました。イカルの声が聞かれ、アキアカネやミカドフキバツタも見られました。

谷口 勇五郎

小樽市 蘭島 2012/9/8

蘭島川に遊ぶ

秋晴れの爽やかな日でした。豊かに実った刈り取り前の稲田の脇を通り、田園風景の中をのんびり歩きます。

減反ゲンタンで今では本当に少なくなってしまう田圃ですが、真近かで稲穂を見るのは初めてという方もいたようです。

日本がTPPに参加などすれば、こんな景色も見られなくなってしまうことでしょう。

この時期の蘭島川は水量も少なく、流れのすぐそばまで降りていくことができます。足元で銀色の腹を光らせて泳ぐヤマメやウグイを見て、ゲットして観察することに挑戦。しかし百円ショップの網では無理でした。

蘭島地区は昔から気候も温和で、古代人の生活の拠点でした。

遺跡も多いのですが、今回は道指定の地鎮山環状列石(ストーンサークル)と忍路環状列石(国指定の史跡)を見学しました。

後藤 言行

国指定の史跡・忍路ストーンサークル(環状列石)の前で

苫小牧市 錦大沼 2012/9/23

天候 晴れ 掲載紙 道新・読売・朝日その他

今年の実りは？

暑い日が続き少々夏バテ。そんな中でも今日はいくぶん涼しい。

今日のテーマは「今年の実りは？」樹木の実について考える観察会。実の豊凶、寿命、拡散などに特化した話もまた面白い。

「今まで何気なく見過ごしてきた事象を改めて見つめなおすキッカケをいただいた。」との感想があった。

いつものように、ゆっくり、わいわい話し合っただけの観察会でした。 佐々木 昌治

旭川市 突哨山 2012/9/29

天候 曇り

秋の突哨山を訪ねよう

昨年に続き秋の突哨山観察会、曇天の中、突哨山口～谷渡りルート～カタクリルート～カタクリ広場への縦走、指導員4人、一般(4歳～60代)13人の計17名で、開花の植物は少なく実が主で、植生としてはフッキソウ、ナニワズ、アキノキリンソウ、ツルリンドウ、ヨツバヒヨドリ、ヒメジョオン、ノブキ、エゾフユノハナワラビ、オオマルバノホロシ、ヒロハトンボソウ、キンミズヒキ、ヤブハギ、ウマノミツバ、ウツボグサ、ズダヤクシュ、ツルニンジン、コケイラン、ユウゼンギク等が見られた。

野鳥(アカゲラ、カラ類)の囀り・姿、キノコ(食毒不明、有毒テングタケ)と周囲の自然林を探勝しながらの観察会でした。

松田 利一





# 参加者の声



旭川市突硝山 (12/9/29)

旭川市 山中 英行

9月29日、「突硝山」観察会に初めて参加させていただきました。突硝山というと、男山自然公園のカタクリの群生地のイメージしかなかったのですが、今回参加し、この山の経緯や男山自然公園は、突硝山の一部で散策ルートが数か所あることを初めて知りました。

突硝山から谷渡りルート～カタクリルート～カタクリ広場までの約2.7kmの森の中で紅葉はまだ始まっていませんでしたが、耳を澄ませば鳥の鳴き声が聞こえ、地面には色とりどりのキノコや、葉緑素を持たない幽霊草、赤い実をつけているナニワズ、コマユミ、ツルリンドウなど、春に見るカタクリとは異なる植物たちをたくさん見ることができ、時間を忘れてしまうくらいとても楽しいひと時でした。

## お詫び

自然観察 103号 14ページの参加者の声（中村 弘さん）の表題が間違っていましたので、お詫びして訂正いたします。

誤 野幌森林公園



正 札幌市中央区円山公園

## 観察部からのお願い

観察部では、全道各地の皆さんから来年度の観察会企画を広く募集します。つきましては、今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所・時刻」・「交通機関」・「連絡先」等の各項目を記載し下記宛て郵送、またはメールにてお送りください。なお、保険適用（観察会集合場所から解散場所まで）の関係上、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりませんので企画立案の際にはご留意願います。募集期間は、12月31日までとし、観察部会にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事會に提出する予定です。なお、追加および訂正は、1月末まで受付いたします。

**観察部 山形誠一 〒 064-0946 札幌市中央区双子山1丁目 12-14**

**Mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp**

## 会計からのお願い 忘れていませんか、会費の納入を！

2012年度会費の納入がまだの方は、同封の振込用紙（払込取扱票）でお願いします。

- ・年度会費は1,500円です。
- ・未納の方には金額を入れた振込用紙を同封しています。
- ・すでに入金済みの方には、振込み用紙を同封していません。
- ・通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。
- ・差し支えなければメールアドレスを記入願います。
- \*退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。届けが出されるまで会費の支払いをしていただきます。

**\* 郵便振替口座 02710-1-876**

**北海道自然観察協議会**

**会計 畑中 嘉輔**



# ウォッチングプラン

開催予定日		テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
11月3日	(祝)	「秋の北大構内」観察会 イチョウ並木とエルムの紅葉を楽しもう	札幌市北区 北海道大学 構内	北海道大学正門 10:00 集合～12:00 解散	JR 札幌駅北口から徒歩 5 分 地下鉄南北線 さっぽろ 駅, 北 12 条駅から徒歩 10 分	須田 節 011-752-7217
未定 1月中旬	(土)	第11回北大構内冬休雪 氷観察 「親子で楽しむ雪の観察 会」	札幌市北区 北海道大学 キャンパス内	【札幌市教育委員会後援】 北海道大学 クラーク会館前 13:00 集合～15:00 解散 (北大構内は駐車禁止) ※小4以下は保護者同伴。 大人のみの参加も可能 雪の入らない靴(スパッツ付 など)・替え手袋・帽子 雪の結晶の写真撮影を希望 教する人はカメラ	JR 札幌駅北口から徒歩 5 分 地下鉄南北線 さっぽろ 駅, 北 12 条駅から徒歩 10 分	須田 節 011-752-7217
申込方法:メールにてお申込み 山田高嗣 E-mail snow@yukihaku.net 参加者全員の 〒、住所、氏名、年齢、TEL、 学年を明記。定員20名(定員になり次第締め切り) 1月4日必着						
1月13日	(日)	「北大研究林」観察会 野鳥・冬芽・動物の足跡 の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00 集合～12:00 解散 予定	JR 苫小牧駅前バスターミナ ル市営バス 9:12 発「01 交通 部前行き」乗車、「美園 4 丁 目」下車徒歩 30 分 無料駐車場有	谷口勇五郎 0144-73-8912
2月16日	(土)	「屯田防風林」観察会 防風林の冬芽や野鳥、 創成川に飛来する水鳥 の観察をしよう	札幌市北区 屯田防風保 健保安林/創 成川	下水道科学館前駐車場 9:45 集合～13:00 解散 あれば双眼鏡、ルーペな ど・寒くない服装	地下鉄南北線麻布駅出口 2 番から徒歩 15 分 中央バス札幌ターミナル発 下水道科学館前下車徒歩 5 分 JR 学園都市線新琴似駅下車 徒歩 15 分	池田政明 011-708-6313 道場 優 011-772-1976
2月17日	(日)	「冬の円山公園」観察会 冬に耐える植物	札幌市中央 区円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00 集合～12:00 解散	地下鉄東西線 円山公園駅 下車	山形誠一 011-551-5481
2月17日	(日)	「冬の錦大沼」観察会 道具を使って雪中散歩	苫小牧市 錦大沼総合 公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50 集合 9:00～12:00 解 散 雨天原則決行・強風日中 止 あれば双眼鏡・ルーペ・図 鑑など持参	自家用車のみ	佐々木昌治 0144-67-2022
3月23日	(土)	「突硝山」観察会 早春の突硝山をスノーシ ューで歩こう	旭川市・比布 町突硝山	「突硝山駐車場」(国道 40 号沿い、旭川から来て 「比布トンネル」手前で国 道左側) 9:30 集合～12:00 頃解散 親子参加も歓迎 スノーシューがある方は持 参。ない方はこちらで用意 します。	「道北バス」旭川駅エスタ向 かい 6 番(7 番)乗り場 「愛別行き」8:20 発乗車 「男 山公園」8:52 頃下車 (バスの時間は 3 月現在のも のです)	原部 剛 080-6092-4347 FAX 0166-37-2462

**【理事会だより】** 〈理事会議事録から抜粋〉

去る10月2日に札幌のエルプラザにおいて第4回の理事会が開催されました。

**1) 各部会報告**

研修部からの報告として本号に掲載されていますが、8月25日(土)～26日(日)にかけて、旭川市で「旭川地方研修会」が開催されました。

また札幌地方研修会については、これも本号に掲載されていますが、10月28日(日)、札幌 小金湯のアイヌ文化交流センターピリカコタンにて開催されました。

次に編集部からは、次回発行の104号会報発行に向けての取り組み状況について報告がありました。

**2) 理事メーリングリストについて**

については、役員同士の情報交換や連絡を円滑に進めるため、メーリングリストを開設することを決めて、目下、各役員にその賛同を確認している最中ということが報告されました。ほとんどの役員は了解されていますが、一部、懸念する役員もおり、今後も引き続き検討を進めることになりました。方向としては、試みをした上で決めて行くことになりました。

**3) 来年度指導員講習会について**

日本自然保護協会主催の「NACS-J 自然観察指導員講習会」を来年度、北海道において1泊2日の日程で開催することが決まっております、それに伴い日程、場所等を決めなければならない状況となっています。実行委員会を発足させてその対応をしていくことになりました

**4) 11月17日の講演会について**

については、11月17日(土)の15時～17時に、札幌エルプラザにおいて、講演会を開催することになりました。テーマと講師候補者がそれぞれ挙げられ、事務局等でそれらの方に当ることになりました。

**5) 忘年会について**

11月17日(土)の講演会終了後開催することになりました。

村元 健治

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は

郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13

観察会保険料は

郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は 事務局 杉山 ルミ 夕張郡長沼町宮下3丁目1-7

Tel/Fax 0123-88-4978

事故発生等緊急時は 7スカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部長 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

Tel 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2012年11月15日/第104号 年4回発行  
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 **北海道自然観察協議会**  
編集 **北海道自然観察協議会編集部**